

☆☆

## 巻機山（井戸尾根往復） ' 88. 3. 26 (土)

メンバー：佐藤 晶彦 他1名

☆☆

3月26日(土) 雪

山岳部顧問の〇先生のリクエストで巻機山へ行って来た。

前日の内に車で清水まで入る。スキー場建設のためか、道路の整備が盛んに行われているようだ。空き地を見つけてテントを張る。

翌日は朝から雪がチラホラしているが、せっかくここまで来たので行けるところまで行こうと、7時過ぎに出発する。桜坂の駐車場まではブルトナーのわだちがあり、適当にショートカットして進む。下から見る井戸の壁は、木がびっしりで滑れそうにない感じだ。雪が柔らかいので、スキーのまま壁を登ることができた。壁の上部には学生の合宿のテント数張と雪洞があった。

林間をしばらく緩やかに登り、ニセ巻機の急斜面にさしかかるところから雪が大粒になってきた。湿った春の雪である。私のシールには、雪がべったりと着いてしまい、足が重い。なんとか、避難小屋まではスキーで登る。雪の付着がひどく、ここからはツボ足で登る。頂上部はさらに雪と風が強く、早々に滑降する。〇先生は190cmの板に登山用のプラ靴なのでスキーをコントロールしにくいようだ。避難小屋に入って昼食とする。

天気は相変わらず悪いが、ニセ巻機からの尾根上には100～200m間隔で赤布があり、次の赤布が見える程度の視界なので快適に滑降することができた。「山溪」で問題となっていた風向計も、今日のような天気では良い目印になる。井戸の壁上部の林間緩斜面では、少し湿っているが浅い新雪を快適に滑ることができた。心配していた井戸の壁も広い場所を見つけて滑降する。標高が低くなるにつれて、雪が悪くなるのは仕方がない。14時前に清水へ下山した。

〇先生に車で湯沢まで送ってもらい、〇先生は山岳部の春合宿へ、私は明日の新雪滑降を期待して平標へとそれぞれ転戦した。

タイム：記録せず